

第71回SGRAフォーラム
20世紀前半、北東アジアに現れた『緑のウクライナ』という特別な空間

2023年6月10日(土) 14:00~17:00

渥美財団(先着20名)およびオンライン
(Zoom Webinarによる)のハイブリット開催
公益財団法人渥美国際交流財団関口グローバル研究会主催
日本語
参加費無料(要事前登録)
お問い合わせ: SGRA事務局 (sgra@aisf.or.jp)



1870年からロシア革命までに大勢のウクライナ人が極東に移り住んだ。1918年1月にキーウで独立共和国の宣言が行われた時、極東のウクライナ人は『緑のウクライナ』という圏を作ろうとしていた。1922年にソ連政權が極東に定着した時、その政權から逃れた100万人の人がハルビンなどに移り住み1945年まで留まっていた。本フォーラムでは、いろいろな民族が住み、さまざまな文化が存在し、新たなアイデアもたくさん生まれていた、20世紀前半の極東アジアに存在した特別な空間について話し合いたい。

- 講演 1: オリガ・ホメンコ (オックスフォード大学日産研究所)
『緑のウクライナ』という特別な空間
- 講演 2: 塚瀬 進 (長野大学環境ツーリズム学部)
『マンチュリア(満洲)における民族の交錯』
- 話題提供 1: ナヒヤ (内蒙古大学蒙古学系)
『中国東北地域における近代的な空間の形成: 東北蒙旗師範学校を事例に』
- 話題提供 2: グロリア・ヤンユー (九州大学人文科学研究院)
『『マンチュリア』に行こう!』
- 自由討論: 司会/モデレーター: マグダレナ・コウオジェイ (東洋英和女学院大学)



参加申込



プログラム



第71回SGRAフォーラム
「20世紀前半、北東アジアに現れた『緑のウクライナ』という特別な空間」

2023年6月10日(土)
於・渥美国際交流財団ホール+オンライン





マグダレナ・コウオジェイ先生（東洋英和女学院大学）による司会でフォーラムが開始。

今回のフォーラムではコロナ禍以降初めて発表される全ての講師の先生方が財団ホールにお集まりになりました。





オリガ・ホメンコ先生（オックスフォード大学日産研究所）による講演「『緑のウクライナ』という特別な空間」。ウクライナから極東へ開拓民として移住した人々の歴史と文化、また農民が大多数を占め森に囲まれた新天地であったことから「緑のウクライナ」と呼ばれるようになった所以などについてお話いただきました。



塚瀬 進先生（長野大学環境ツーリズム学部）による講演「マンチュリア(満洲)における民族の交錯」。
14世紀から20世紀までのマンチュリア地域の歴史を俯瞰し、国家や民族の枠組みを前提にした認識でマン
チュリアを考察することの問題や限界についてご発表いただきました。

ナヒヤ先生（内蒙古大学蒙古歴史学系）による話題提供「中国東北地域における近代的な空間の形成：東北蒙旗師範学校を事例に」。内モンゴルの王公や知識人たちの動きに注目し彼らが北京、南京、奉天（瀋陽）、吉林などの各地を拠点に、政治、経済、文化、教育、出版をはじめ様々な活動・運動の展開を模索していたことを発表されました。





グロリア・ヤンユー先生（九州大学人文科学研究院）による話題提供「『マンチュリア』に行こう！」では、20世紀前半に開通した満州鉄道によって日本からの鉄道の旅が盛んに注目されていた様子が発表されました。また日本を含む周辺国からさまざまな移住者がマンチュリアの多様性を構成していたことがさまざまな視覚資料、小説、紀行文などを事例に挙げながら示されました。





自由討論の様子。
発表された先生方の他、会場参加
の方々からも鋭い質問が複数投げ
かけられ、大変充実した時間となり
ました。





ご参加くださいました皆さま、ありがとうございました。